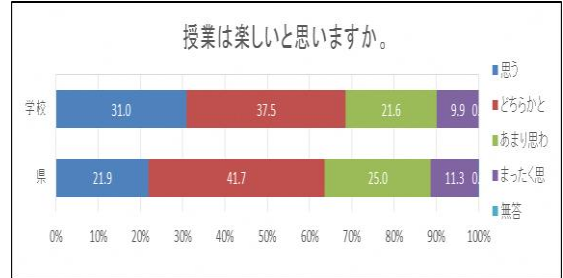


1 研究主題

生徒が主体的に学び、学びの成果を実感できる授業づくり

2 研究主題設定の理由

平成30年度の実践の成果として、県学習状況調査の生徒質問紙で、「話し合う活動を行っている」「振り返りの場を設ける」項目について、肯定的回答が県平均を上回るなど、「学び合い」「振り返り」の場の設定は定着してきている。また数年来「授業は楽しいと思う」の項目において、肯定的回答が県平均を下回っていたが、昨年度は良い傾向が見られた。一方で、教師アンケートから、生徒一人一人が興味・関心をもって主体的に取り組む授業づくりや、生徒自身が学びの成果を実感できる振り返りは十分でないと感じていることがうかがえる。そこで、「生徒の興味・関心」「学習意欲喚起」をキーワードに、「生徒が主体的に学ぶ授業」「生徒が学びの成果を実感できる授業」を目標にして授業改善に取り組むことが重要であると考え、本研究主題を設定した。



3 研究の具体

(1) 「学力向上モデル校事業」(学習意欲向上モデル校事業)の活用

①学習意欲の向上に視点を当てた研究

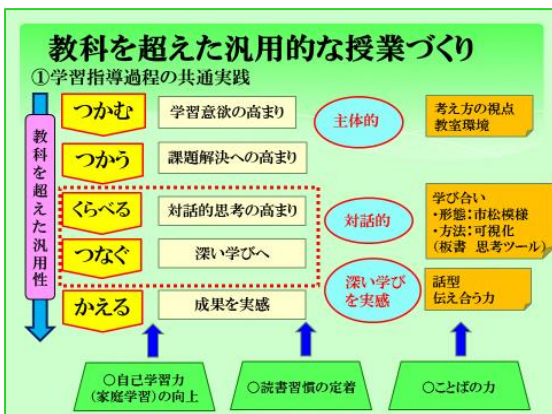


②アンケート「研究成果の参考とする15の指標」の活用

- ・生徒アンケートと教員アンケートを、春と秋の2回実施する。
- ・達成度や変容の見取りを行い、取組の検証・改善を図る。
- ・経年変化を見るために基本的な項目は継続し、目指す事柄の成果を見るために必要な項目を追加した。

(2) 教科を超えた汎用的な授業づくり

①学習指導過程の共通実践



②学習指導案の法則化

③学習指導案の法則化

【教師の資質向上】
確かな説明力

- 単元(題材)観について
- 学習指導要領との関連
- 付けたい力
- 単元(題材)の価値

生徒観について

- 身に付けたい力に関する現状
- 本学級の関心・意欲

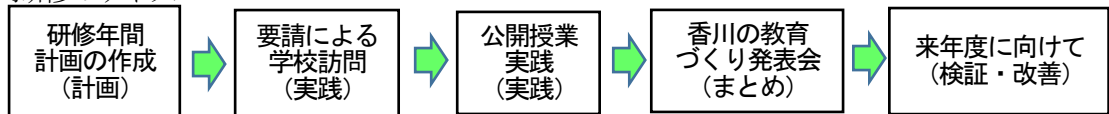
授業展開の流れを学習指導案の中に位置付ける

「つかむ」「つかう」「くらべる」「つなぐ」「かえる」

③「学び合い」を効果的に位置付けた日常的な授業実践を推進

(3) 見通しをもった研究体制づくり

①校内研修のサイクル



- ②校内研修計画
- ・全職員年間2回の授業公開
 - ・研究成果の焦点化
 - ・外部講師(指導主事)を招いての研究協議

